

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770101560
法人名	社会福祉法人サマリヤ
事業所名	西春日グループホーム
所在地	高松市西春日町1510-1
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 24 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3770101560-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「愛、忍耐、技術」を基本にその人らしいさとは何かを追求し、居心地良いアットホームな空間作り、また安心安全な暮らしを提供するように努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まずは、理念を職員が語り、盛大なクリスマス会が始まる。会では、職員の理念の浸透が窺われ、利用者一人一人に導かれ、学び、不安な時に寄り添い、何が出来るのかを伝えていた。時に、家族会としても集い、お茶菓子でもてなし、理事長も参加して、看取りなども含めて気さくに話し合い、介護の行く末まで語ることで、縁を築いている。普段テレビから共通の話題として苺の話で盛り上がり、「苺を植えたい」という事から、家族がプランターを用意した事や季節を感じて頂く為に、粉末の甘酒をお出ししたら「久しぶりだー」と喜ばれ、雰囲気で酔ったシーンもあって、家族との共和に役立たせている。理事長は、現場に入って、「困ったことない？」と職員に聞き、そのことを評価員が問うと「私も一職員だ」と語る。フラットな組織を築こうとし、職員もその言葉どおり心の成長を施設という環境で育てている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は愛、忍耐、技術を持って利用者様おひとりおひとりのその人らしさを追求し、安心した暮らしを提供しています。	理事長直筆の法人理念がフロアに、それと並列に事業所のスローガンが掲示されていて、職員は暗記している。毎月のグループ事業所の合同研修会でも、理事長から、直接、理念に触れて講話がある。新入職者には、出来る限り実践で約1週間～1ヶ月の間、一緒にケアしている。	せっかく素晴らしい理念を掲げられているからこそ、さりげなく浸透できる様に地域に広報しては如何でしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域運営推進会議にて地域の民生委員の方や鶴尾コミュニティの方のお話を伺っています。	自治会や婦人会、保育所、団地の自治会等、地域の関係機関の相当数とのご縁や情報共有が、今も続いている。そして、天気の良い日に利用者が玄関を出ると、直ぐ近くに県営住宅や保育所があり、そこに住まう人や子供たちと触れ合う事が出来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解の方法を地域運営推進会議を通じて報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議にて、レクリエーション、外出などの活動報告を行っています。	書面会議として隔月に継続開催している。メンバーは、自治会長、民生委員、行政、利用者と家族の代表、婦人会、地域包括支援センター等が参加し、コロナや地域事情の新しいニュースを共有している。家族とは電話で、栄養補助食品や衣替え等の意見を頂き、反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高松市に空き室、待機者情報を報告し、地域運営推進会議に介護保険課職員に出席いただいています。	窓口は管理者と職員で、分からない事等、何でも気軽に相談出来る関係となり、地域の重責の役割も果たしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の研修の中で身体拘束について学習する機会を設けています。	身体拘束はしていない。年間3回の研修では、事例検討形式が主で、最新資料は適宜用いている。不穏症状が著しい方には、落ち着くまで職員が付き添い、愛情を持って自立支援をできるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の研修の中で虐待について学習する機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の年間研修の中で日常生活支援事業や成年後見制度について学習する機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様に重要事項説明書を通じて説明を行い、納得されて利用契約書を締結しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け苦情に対応しています。家族交流会年2回開催しています。面会時に意見や要望の聞き取りを行っています。	「何か語らう場を」といった期待に応えて、馴染みの家族会の参加も続いている。「苺を育てたい」との利用者の言葉に、家族がプランターを用意し、他の利用者と一緒に成長の期間を楽しめた。また、利用者に季節を感じて頂くとの思いで、甘酒を差し出し、雰囲気は酔い、家族の縁も深い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月グループホーム会議を行い、利用者のケアや業務の流れについて話し合いサービスの向上を図っています。	理事長は「私も一職員です」と開ロ一番。入浴介助も当たり前とそう語る理事長は、毎日の様に、職員の仕事終わりに理事長室の横のエレベーター付近で、個別に「どう？変わったことない？元氣？」とフラットな言葉で意見を聞き取る。管理者も穏やかなので、業務やシフトもスムーズである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に毎月1～2回の希望休を確認し、シフトへ反映を行っています。研修の案内閲覧しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修などを閲覧して希望の研修を受講しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月サマリヤ松並にて勉強会を行い意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者前に面会してアセスメントを行い本人の要望や不安な思いなどを伺いながら関係づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者前に訪問面会してアセスメントを行い家族の要望や不安な思いなどを伺いながら関係づくりをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ADL低下時居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム、ショートステイ等の事業所と連携しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作り、食器の下膳、洗濯たみ、お盆拭き、テーブル拭き、掃除など本人様が出来るような事はお願ひしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族様への手紙で本人様の健康状態や様子などを書き郵便にて送付しています。本人様の嗜好品、消耗品購入などお願ひしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で行っていた美容室に家族対応にて行かれています。	この期だけに今や、訪問理美容が馴染みとなっている。同一建物の特養・ショートステイ・デイサービスの利用者と行事やお出かけの時、ちょっとした待ち合わせの時間が交流の機会となり、すっかり馴染みとなっている。また、年賀状や電話の取次など、自粛ムードと上手く折り合いを付けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、グループホーム会議の中で共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了された方はケアマネージャに電話にて様子をお聞きしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様には日々声掛けを行い希望、意向を伺っています。ご家族には面会時、サービス計画作成時やモニタリング時希望、意向を伺っています。	家族会は、理事長も参加して、お茶菓子と共にフロアで行い、終末期や看取りについても語り、皆で学びを深めている。自発性が乏しい利用者の不安な時に、しっかり寄り添う事を旨としている。散歩も意思のきっかけ作りである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅サービス計画ガイドラインを活用した総合アセスメントを実施しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、出来る事などケース記録に記入して日々の過ごし方を把握しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活で気付いた事や状態変化など申し送り簿、ケース記録に記入し介護計画に反映させ介護計画を作成しています。	入居時に立てたプランを、1ヶ月で見直し、さらに3ヶ月・6ヶ月と見直す。状態に応じて見直し時期を調整している。モニタリングは3ヶ月毎で、職員の意見を集約して行う。プラン作成時には、本人・家族・医療従事者ほか、ケアチームの意見を取りまとめて作成、交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入をしています。グループホーム会議などで気づきや工夫を共有援助に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族様の事情により通院などの支援を随時、定期的に行っています。本人様健康状態が悪化された時受診援助を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議には、民生委員、消防、警察、高松市包括支援センター、高松市介護保険課参加頂き随時協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関である香西内科医院による定期往診の他、個別に希望される医療機関で診察を受けられています。緊急時には往診による医療措置並びに医療機関紹介等、適切に支援しています。	入居時にかかりつけ医を選べるが、殆どの方が提携医に転医される。提携医も他科も職員が介助する。どの医療従事者とも、何でも話せる関係が構築されていて、建物内に常駐している看護職員との連携で、医療連携はし易い。訪問歯科は、衛生士と共に月1回、口腔の支援を頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に介護職員やケアマネージャーが身体状況や気づきを伝え相談し受診行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際初期情報を含めた生活状況の報告行っています。退院時は医師、看護師から状態を聞き取り情報把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の意向について聞き取りを行い書面にて意向確認しています。	研修は年3回で、講師は職員の担当制で資料を持ち寄って行う。キャリアの若い職員には、折に触れ「ありがとう」「お看取り出来て良かったよ」の気持ちを持てるように理事長自ら言葉をかけて、合言葉は「あなた自身ならどうされたい」と心の成長を促している。家族会の話題に、必ず「死」を上げて、家族を巻き込んで学びを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命措置やAEDの使用方法など、事業所内の研修で行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所との消防訓練や防災監視盤操作マニュアルを作成し、情報を共有し有事に備えています。	年2回、火災と地震の訓練を昼夜想定で、利用者や併設事業所とマニュアルを元に合同で行う。連絡網、避難経路も掲示されている。備蓄は、水・食料・衛生材料・防災セット等が、1週間分を用意している。	備蓄の上手な消化活動を行い、利用者が喜ぶような備蓄としては如何でしょうか？

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳元でゆっくり大きな声で声掛けを行っています。入浴時は男女別々に入浴行っています。排泄時は居室の戸を閉め露出部を出来るだけ少なくしてオムツ交換を行っています。	呼称は、苗字に「さん」を付ける。家族からの要望で愛称を採用する事もある。また、職員が利用者の様子を見た上で、愛称で呼んだ方が良さそうな場合は、家族に了解を得て呼ぶ事はある。常に「相手の立場、家族がそこに居たらどうなの？」と自問しながら関わる様に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時衣類の選択また飲物の選択など本人様の希望を伺っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事を召し上がられない時などは時間を遅くしたりして対応を行っています。横になりたいと訴えがあれば居室で横になって頂いています。トイレの訴えがあれば最優先で対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によっては口紅、化粧水を購入しておしゃれを行われています。マルナカなどで衣類を選び購入されています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に皮むき、材料を混ぜる等行って頂いています。食後は食器洗い、お盆拭きなどを行って頂いています。	ケータリングの食材を盛り付け直している。食器洗いや盆拭き、食事も職員と一緒に交流を深めている。おやつは、レクリエーションとして定期的につけており、牛乳プリンや誕生日ケーキ等、一緒に楽しんでいる。プランターの食材と一緒に育て、収穫して食卓に上げる日もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事、水分量を記録し、把握しています。食事が少ない方や嚥下が困難な方はミキサー食、刻み食、トロミなどで対応しています。体重減少が見られる方は主治医に相談しエンシュアリキッドを処方しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後本人様に声掛けを行い洗面所まで案内し口腔ケアを行っています。義歯の方は食後義歯を外し本人または職員が洗っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン把握の為排泄時間を記入しています。食後トイレへの声掛け、誘導を行っています。	日々の経過記録から排泄パターンを読み解いたり、いつもと違う動きを読み取ったりしてトイレに誘導する。原則は、トイレだが、ポータブルトイレは、安眠を促す、または、転倒予防等を目的に、どうしても必要な方のみ設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホールでの体操参加、施設内または施設外散歩食事時、おやつ時お茶牛乳摂取して頂いています。個別対応ではヨーグルトを召し上がられています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別対応にて行っています。入浴を拒否される方は時間を変えたりして声掛けを行っています。	週2回、個浴の檜風呂を提供し、機械浴も使い、重度の方への対応も可。入浴を面倒くさがる方には、「サマリア温泉に入ろうね」、「息子さんが入ってと言っておられますよ」、「お金は息子さんから頂いているから大丈夫ですよ」等と言葉をかけると、安心されて入浴され、湯上がりがご機嫌。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけホールで過ごして頂くようにしています。体調不良の場合は居室にて休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医に処方された薬はファイルにて管理を行いいつでも確認出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、お盆拭き、テーブル拭き、掃除などお願いしています。施設行事踊り、歌等に参加されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望により衣類、食べ物買い物支援を行っています。	周囲が団地群で交通量も少ないので、散歩に出かけやすく足腰の鍛錬には向いている丘に位置する。玄関でお出かけを待っていると、敷地内の他の利用者と交流する事も日常茶飯事で、見晴らしがよく、自然の中で、自然と話題が飛び交うことが多々ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持は行っていませんがお金を使える様支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に手紙を送っています。希望時職員に電話をしてもらい電話を行われています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の照明は電球色を使い柔らかく落ち着いた色を使用しています。	木調の素材が豊富に使用され、テーブルには、生花を活けていて、穏やかな家庭の雰囲気を感じ、利用者は好きな席で制作活動や家事に勤しんでいる。ホールや居室は湾曲した造りとなっていて日差しが満遍なく当たり、利用者が職員に注意して取り組んで欲しい事を書で書いて掲示しているのもモダンな施設とフィットしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を配置して一人一人が思い思いに過ごされる様に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、洋服ダンスなど使い慣れたものを持ち込まれています。	安全に留意された配置を施し、懐かしい写真を飾り、居室に戻るとお孫さんの写真が一声かけてくれ、ホッと安心できる落ち着いた風情を生んでいる。そんな家族と語れる場となり、さり気なく昔に浸れる空気が漂い、心が休まっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには利用者の名前を書き居室が分かる様にしています。トイレのドアにはトイレと書いています。		